

上田市教育委員会 4 月定例会会議録

1 日 時

令和 8 年 4 月 22 日（水） 午後 3 時 00 分から午後 3 時 50 分まで

2 場 所

上田市役所 202・203 会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	酒 井 秀 樹
教育長職務代理者	安 達 永 眞
委 員	木 口 博 文
委 員	萱 津 公 子
委 員	荻 野 茶 々

○ 説 明 員

池田教育次長、菊池教育参事、橋詰教育総務課長、宮原教育施設整備室長、渡辺学校教育課長、佐藤生涯学習・文化財課長、中沢人権同和教育政策幹、和根崎上田城跡整備担当政策幹、小須田学校保健給食課長、田中中央公民館長、加々井西部公民館長、嶋田城南公民館長、岩下上野が丘公民館長、坂部塩田公民館長、春原川西公民館長、池田第一学校給食センター所長、傳田第二学校給食センター所長、黒岩丸子学校給食センター所長、金田上田図書館長、中村上田情報ライブラリー館長、山寄上田市立博物館長、久保田丸子地域教育事務所長、宮島真田地域教育事務所長、小松武石地域教育事務所長、馬場部活動地域展開推進担当政策幹、清水部活動地域展開推進担当政策幹

1 あいさつ

これより4月の教育委員会定例会を始める。

今週の月曜日から小学6年生・中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査がスタートした。英語を皮切りに今週からスタートし、英語の「読む・聞く・書く」の3つの領域については4月24日までの間に分散してコンピューターで回答していく形になっている。そして、もう一つの分野である「話す」領域については5月の初旬を目安に各学校で行っていく形で、いわゆるCBTと言われるものであるがコンピューターを利用した学力テストがスタートしている。また、国語と算数・数学は、明日23日に行われると思われる。

4月6日、小学生1,659名、中学生1,221名を迎えて新年度がスタートした。教育委員の皆様には入学式に参列をしていただき、告辞の方ありがとうございました。

各学校のホームページには、早速お花見給食会であるとか、一年生を迎える会、交通安全教室、そして中学校では修学旅行、と、子どもたちの楽しそうな姿が画面の中に溢れている。俵万智さんの「消しゴムを八十円で新調す 時計のベルトを変えて二学期」という短歌があるのだが、新しい学年学期を迎えて、何か気持ちも新しくスタートしていこうという、子どもや先生の新鮮なワクワクした心を感じる。4月、気持ちを新たに新生活に臨む子どもたちを支えていただくとともに、今年も1年、保護者の皆様にとっても子どもたちにとっても、生き生きと活動できる学校生活を送れるように、また教育委員会として支えていかれればと思っている。

2 新任事務局職員紹介

池田教育次長より、4月の人事異動に伴い、教育委員会事務局に配属になった職員を紹介。

3 協議事項

(1) 「上田市オープンドアスクール設置検討会議」の委員構成の変更について

(学校教育課)

○資料により渡辺学校教育課長説明

上田市オープンドアスクール設置検討会議の委員構成の変更についてということで、検討会議については令和7年4月から設置しオープンドアスクールの設置に関する審議をしていただいていた。任期については2年間で令和9年3月までで、委員定数は15人以内ということで進めてきた。これまでは11人の方に委員として委嘱を申し上げ審議をしていただいたところである。この度の人事異動により退任

された方1名、新たに選任したい方2名、計3名の方の変更をお願いしたいというものである。

まず退任委員については綿貫泰正委員で、これまで第六中学校で不登校支援、校内フリースクールの担当をしていただいたが、この度人事異動ということで推薦団体である上田市校長会から申し出があった。なお、綿貫委員については、4月1日付で長野県教育委員会から上田市教育委員会へ指導主事として派遣ということで、現在はオープンドアスクールの業務を担っていただいている。

新たに就任をお願いしたい委員として、北沢敦委員である。団体推薦として校長会から御推薦いただいている。続いて小林武委員である。こちらも団体推薦として校長会から御推薦いただいている。北沢委員については、今、校長先生というお立場で、今年度、特に学校の教育課程や、授業の内容・活動を協議していくにあたり現場の声などをより多く取り入れるということで校長会から御推薦いただいたということである。小林委員については、現在第六中学校で校内フリースクールの担当の教員をされているということで、前回の綿貫委員に替わりそういった現場の声を反映させていただきたいということをお願いしたいというものである。

もうひとつ、市川邦子委員であるが、長野県と上田市のスクールカウンセラーとして御活動いただいております、不登校児童生徒とその保護者の相談支援ということで、より現場の御本人たちの声や悩み、そういったものを新しい学校に反映させていきたいという思いで御依頼したというものである。

裏面をお願いしたい。

委員の構成変更ということで一覧にさせていただいた。それ以外の委員については引き続きをお願いしたいというもので、13名の委員、それから長野県の義務教育課、心の支援課にはオブザーバーとして御参加いただき、今年度の審議を進めて行きたい。以上である。

酒井教育長

ただいまの件について教育委員の皆様から御意見あるか。

よろしいか。無ければ資料にある皆様に委員の委嘱をお願いするという事で承認いただけるか。

○全員了承

4 報告事項

(1)「文化財 de 文化祭 in 依水館」実施報告（生涯学習・文化財課）

○資料1により佐藤生涯学習・文化財課長説明

「文化財 de 文化祭」については市内に数多くある文化財、これらの貴重な宝をより多くの方々に知っていただき後世に継承していくために、音楽やパフォーマン

ス等のイベントを行い、文化財の活用モデルとして提案していくことを目的に実施するものである。

今年度は、写真にもあるが、市の指定文化財である依水館で3月15日に行った。依水館は、大正7年に製糸結社・依田社により建てられた迎賓館である。戦中戦後には個人の手に渡り住宅として使用されていたが、平成14年に旧丸子町が土地と共に取得、平成15年には国の登録有形文化財に登録され、最終的には平成18年に上田市の有形文化財になっている。写真は室内になるが、外観は木造の平屋建てでL字型、外が良く見えるようにガラス戸になっている。座敷の中は非常に端整な造りになっており、欄間など凝った作りで全体的に大正時代の建物の特徴を捉えている。最近、山極勝三郎さんの映画があったが、その映画のロケに使われた場所でもある。今回、この依水館の趣に合致する伝統工芸品ということで小岩井紬工房さんに依頼をし、「文化財 de 文化祭」の趣旨に賛同していただき、ここでイベントを開催したというものである。

詳細は記載のとおりであるが、依水館の御紹介とともに上田紬の話を小岩井カリナさんにしていただいた。そのあと、若干参加費をいただいたが、着付けの体験と撮影会ということで、写真も出ているが赤い絨毯の上を歩いていただきファッションショーという形で皆さんに楽しんでいただいた。

最後にアンケートがあるが、非常に好評いただき、評価をいただいたと思う。今後こういった活動を続けていきたい。報告は以上である。

(2)自然科学講演会「上田はかつて海だった」実施報告（生涯学習・文化財課）

○資料2により佐藤生涯学習・文化財課長説明

クジラの化石については、令和元年に市内の浦野川で発見され、現在クリーニング作業が行われている。6年以上経過している中で、作業や調査も進んでおり、その状況について市民の皆さんに情報発信するため、昨年に引き続き自然科学講演会を開催した。

概要については記載のとおりであるが、3月21日(土)サントミューゼの多目的ルームで、鈴木講師により中間報告と講演会を行っていただいた。参加者は95名。前回は73名。非常に多くの幅広い年齢の方に参加していただいた。参加者については、ホームページ等で募集したところすぐにいっぱいになってしまう状況で、非常に関心が高い。また、裏面に感想・意見を載せてある。講師の鈴木先生の語り口も面白く、皆さん非常に満足していた。

今後、クリーニング作業にまだ時間を要するので、最終的に展示するまでの間はこのような形で経過を報告していきたい。以上である。

酒井教育長

ただいまの件について教育委員の皆様から御意見等あるか。

木口委員

質問であるが、経過の状況というのはどのような進捗なのか。

佐藤生涯学習・文化財課長

化石自体は完成すると 10m くらいあり、3 分割して 1 つ目はほぼ終わっており、クジラのひげのある先の方がきれいになっている状況で、その御説明であった。それに関連して、この地域に当時フォッサマグナがあり海の底だったというような話で難しい説明もあったが、関心の高い方々に分かりやすい説明をしていただいた。

(3) 史跡上田城跡発掘調査予定について（生涯学習・文化財課）

○資料 3 により和根崎上田城跡整備担当政策幹説明

資料 3 と合わせて地図も一緒に御覧ください。

最初に(1)、地図の方では①になるが、三十間堀平面調査を 5 月から予定している。当該地については現在市民会館の建物の解体をしているが、建物の 95% 程度解体が進んでおり、この調子でいくと、工事自体は建物の解体・整地まで含めて 8 月を目途に完了するのではないかと見込んでいる。そのような進捗の中で、発掘調査については通常であればフェンスをかけながら人の出入りを制限して行うところであるが、隙間の場所について丁度高い塀に囲まれている状況の中なので、工事のフェンスを転用しながら進めたいということで、この時期から始めたい。完了については 12 月を予定しているが、この場所は現在石碑であるとかツツジの植栽があるところで、その部分の移設の工事を先に行った後実施する予定で、今、準備を進めている。目的としては、武者溜りの整備の中で、この塀をどのように再現していくかというところを、今回の調査によって最終的に判断するということである。

次に(2)二の丸南東隅調査、地図は②のエリアになる。こちらについては市民会館の建物の周辺ということで、解体工事が完全に終わったあとに着手したいと考えている。今の市民会館の敷地の周辺に江戸時代にかつてあった土手のようなもので、私たちは土塁とよんでいるが、高さ 3m ほどの土手の痕跡を見つけないということ。この痕跡が見つかれば、この後の武者溜りの整備の時に土塁までの復元が可能になるかと思うが、やはりこちらも最終的な判断をしたいということで調査を実施するものである。地図では赤く囲ったところの中にオレンジ色で線が引いてあるが、赤い範囲全面を発掘するのではなく、黄色く示した溝状の調査のやり方をしながら土塁の痕跡を確認していくということになる。

(3)本丸西虎口石垣調査、地図では③になるが、こちらについては櫓の復元を想定して調査をするということで、既にこのエリアについては平成 3 年度に一回発掘調査を済ませている。ただ、当時の見解と今の私どもの見解のところで遺跡の捉え方に少し差があるので、その部分を文化庁に説明できるように再発掘をするということで考えている。こちらについては、(1)番と(2)番の発掘調査の状況を見ながら空いた時間を捉えて実施したいと現在計画を立てているところである。

以上３つの場所について発掘調査を今年度進めて行きたいと考えているが、場合によってはプラス１か所か２か所追加で調査をする可能性もある。調査の進捗と結果については、従来どおり教育委員会の方でも報告させていただくとともに、SNSや広報うえだ等でも成果について市民の皆様に随時周知をさせていただきながら進めて行きたいと考えている。

今後のスケジュールについては先ほど御説明したとおり、８月に市民会館の建物の解体工事については終了見込みということである。説明は以上である。

酒井教育長

ただいまの件について教育委員の皆様から御意見あるか。

よろしいか。報告事項については以上となる。

(4)から(13)までの説明はないが、委員の皆様から御意見等あるか。

安達教育長職務代理

資料４の戦争遺跡の説明看板の設置についてであるが、富士山にこういった経緯で看板がついたのか。この看板は「戦争を伝える松」と書いてあるが、ほかの松脂を取ったところでも、少し文章が変わっているだけでほぼ同じなのではないかという思いを自分はしている。平和学習をしていくときに、目に見える現物と同時にそこに関わった人、そのものの裏にあるような形にならないものをどう伝えていくかということが大事になると思う。例えば鴻の巣のこれだとすれば、ここに実際に関わった人やそれぞれのところに何かあると思う。「木に泥を付けちゃいかんぞ」と怒られたとか、そういうのはあると思うが、もう少し見えない部分に伝わっていくようなものがあればいいなと思う。この遺跡を守ってこられた地域の方がそういうものをきっと持っておられると思うので、そんな意味でこれがどうしてここにつけられたのか知りたい。以上である。

佐藤生涯学習・文化財課長

資料の裏面に説明看板設置状況があるが、現地を見に行くと木が再生していて、昔の面影ほどではないが、ここにあったということは示したいということである。継承については、文化庁の方でも戦争遺跡という項目は正式に決まっているものではないので、上田市の方でどう扱っていくかという指標としてこのようにしている。経緯については、裏面の令和４年のところの遊佐准尉自決の地というのが猫山近くにあるだが、そこに携わっている現地の村山さんを中心とする会があり、その会の方々から平和という観点から相談を受け、その方々の強い思いもあったということも経過の一つになっている。それに付随して村山さんに関連する方々から、当時ここに関わった「鎌」がありそういったものの保存の相談もあり、どう扱っていくかという検討をしているところである。川辺小学校には、有志の方によって当時の戦争遺跡が展示されている。そういったバックボーンは地域の方はお持ちで、こちら

にも相談があるので、今後検討していく課題と捉えている。後世に伝えていくべきものという視点に立って相談に乗っていきたい。

安達教育長職務代理

例えば、苦しい中で松から脂を取ってエンジンの油にしようとしたというところをもう少し調べたいという人が、いくつもあるこの遺跡を回っていったときに、「この説明文はさっきのと同じだぞ？」というのが今の現実じゃないかと思う。この案内文のところに地元の方々の思いが少し入ったりすると、見た方にも思いが伝わるのではないかと思った。以上である。

酒井教育長

御意見としてお伺いさせていただく。

他に御意見あるか。

萱津委員

今のところに付随して、今は 12 か所になっているが、松脂だけではなく、上田市内にほかに戦争遺跡になるような候補として挙がっているところは何か所があるのか。

佐藤生涯学習・文化財課長

真田の方に、当時の天皇の書面を飾ってある祠みたいなものがある。それをどうするかというような話は少ししている。

萱津委員

松代大本営のことを考えると、多分長野県が最後の砦の対象になっていた。ここに天皇を連れてきて本部として、戦争を継続するという意向があったことを考えると、今であれば常識では考えられない発想が出てくるほど日本は追い詰められていたことがわかる。このようなエピソードがわかると、子どもたちも戦争になるとどういうふうに意識が操作されるのかな、と考えることができる。それぞれのところで地域に伝わっている違った種類の戦争遺跡を入れると、学ぶ上ではいいと思う。

松脂のところはたくさんあるが、違う種類の戦争遺跡も示していただけるとありがたいと思う。

木口委員

要望であるが、ホームページを見た時に戦争遺跡の案内図が、資料裏面にある地形図のようなところにポイントが示されているだけで、文章も、その場所の説明が非常に少なく、オリエンテーリングで探さなければいけないくらいの地図しかない

もので、実際この場所に見に行きたいと思った人がその場所になかなか辿り着けないような感じがした。私も一昨年に仁古田の飛行機製造地下工場跡を見に行かせていただき、先ほど萱津委員からもあったが、本当に日本がこれだけ追い詰められて、こんなことまで考えなくてはいけないような状況になっていたのだと改めて感じて感じた。今みたいな時代だからこそ、戦争とか平和教育みたいなものは本当に重要だと思う。こういった遺跡なども学校現場でもぜひもっと広く活用して欲しい思いがある。そういった面でまず、ホームページ等での紹介に関して、もう少し具体的な説明や分かりやすい道順みたいなものの説明があると、行ってみようかなという気持ちになると思うので、検討していただき追加していただけたらと思う。

佐藤生涯学習・文化財課長

戦争遺跡については、塩田地籍に県下でも有名な無言館があり、平和教育に携われるような施設がある。関西の大学の方からも無言館を中心に平和教育をやっているというようなお話も伺っている。そういったことも含めて、戦争遺跡の活用ができるように、説明についてできるだけわかりやすくしていきたいと思う。

酒井教育長

続けていかがか。よろしいか。

報告事項については以上となる。

事務局から何かあるか。

委員の皆様から何かあるか。

安達教育長職務代理

報告事項の資料7 啓発リーフレット「スマホ・ネットをかしこく安全に使うために」について、昨年、子ども向けだけれど大人向けみたいと言っていたリーフレットであるが、子どもの立場に立ってというか、子どもが読みたくなる感じがして今年のリーフレットはいいなと思った。

また、質問であるが資料6の「出前ときめきのまち講座」について、とてもありがたいと思うが自分が自治会長をやっていたときにこういうことはあまりよく知らなかったが、どのように広報されているのか。ホームページは見ないので例えばこれが広報に入ることはあるのか。

また、最後の資料12は全戸配布か。

佐藤生涯学習・文化財課長

出前ときめきのまち講座のリーフレットについては、各戸にお配りはせずホームページ中心にしている。紙のチラシについては公民館等にも置いて周知している。そこに実際の使い方等が書いてあるのでそれを見て紹介していただいたり、活用していただければと思う。

安達教育長職務代理

ありがたいと思うので是非たくさんコマーシャルして欲しい。知らないでいる人や悩んでいる人が多いのではないかと思いますのでお願いしたい。

佐藤生涯学習・文化財課長

資料 12「地域とともにある学校づくり」リーフレットについては、各戸配布ではなく、学校・関係機関を中心に配布している。これに関して昨年は広報でも特集して記事を載せていただいた。

酒井教育長

続けて委員の皆様から何かあるか。御連絡あるか。

それではここで、4月28日、上田市教育委員の任期を迎える木口委員であるが、定例教育委員会の御出席は本日が最後になる。

私は木口委員と2年お付き合いさせていただき様々な場面で支えていただいた。特に子どもの見方であるとか、子どもに対して、先生を含めた大人がどういうスタンスで行けばいいのか、いつもその視点からお話をいただき、この教育委員会の席上でも、また教育長室でも、お支えいただき励ましになるお言葉をたくさんいただいた。

木口委員とのことを思い浮かべていって浮かんだのが、細井平洲先生の言葉である。細井平洲先生が、「子どもたちと接する大人である教師というのは、畑で育っていく菜大根を育てるような気持ちでないといけない。芽を摘んだりあるいは好みに合わせて育てたりするのではなく、その子の特性を踏まえて、その特性に合わせて育て方をすべきだ。教師の見方だけで教えられる子どもたちは非常に不幸ではないか」というようなことを、今から300年前におっしゃっているが、そんな言葉が思い出される。

木口委員には本当にお世話になった。

萱津委員

胸がいっぱいになる。私も木口委員には、学校訪問でのいろいろなエピソードを聞かせていただき、多角的な視点を改めて教えていただいた。本当に様々なお子さんのために心を砕いて教育委員をやっていたらと思うている。ありがとうございました。そして、4年間お疲れさまでした。

木口委員

本当に熱いお言葉をいただいて胸がいっぱいになっている。

4年前、秘書課からお電話があり教育委員にというお話をいただいた。その後、当時の土屋市長からお電話をいただき、これは意味のあることなのだと思います。

受けした。それから4年間はあっという間であったが、一言で言うとても楽しい4年間を過ごさせていただいた。

当時の峯村教育長には教育委員会とは何かというようなところを教えていただき、当時の北沢職務代理からは教育委員とは何かというようなことを教えていただいた。また、当時の児玉参事には学校訪問での学校の見方というような視点などを教えていただき、その後龍野参事や菊池参事には本当に温かく私のことを見守っていただき、支えていただいた。安達委員には子どもが真ん中だという視点を、それまでも私自身その気持ちを持っていたが、安達委員とお話をしている中でまだまだだな、ということに気づくことができた。萱津委員にも荻野委員にも、私に今までなかった視点というものを教えていただき、私も子どもたちにいつも「視野を広く持ちなさい」「いろいろな視点で物を見ることは大切だよ」というようなことを言っていたが、改めてそういった部分を教えていただいた。

酒井教育長には、先ほど2年間とお話をいただいたが、4年前酒井教育長は第二中学校の校長先生で、翌年は東信教育事務所でお仕事をされて、私は4年間一緒にお仕事させていただいた気がしている。酒井教育長とは、本当に教育に関する根本的な部分でいろいろと同じ部分がたくさんあるなと思いながらお話をさせていただき本当に感謝している。職員の皆様にも4年間支えていただき、こうして終わることができるということで感謝の気持ちでいっぱいである。

私自身、昨年大学の同窓会があったが、その時に周りが黄昏感というか自分の仕事は終わった感じの雰囲気があって、60代というのはとても楽しみで自分のやりたいことを実行できる年代じゃないかと思っていたのでショックを受けた。

この4年間いろいろなことを勉強させていただいた。今まで外から見ていた教育委員会・学校・関係施設に入ってみることで、視野が広がりいろいろなものが見方がまたできた。この歳になって成長を実感できる4年間であった。これからも上田市の教育に微力であっても何かできることをやっていきたい、いろいろなことにチャレンジして頑張っていきたい、と思っている。本当に4年間ありがとうございました。

酒井教育長

ありがとうございました。

以上で定例会を終了する。

終了